

年間第 2 3 主日の説教

金 大烈 神父 2008 年 9 月 7 日 (日)

《知る事は変化を意味する》

おはようございます。

私達は毎日鏡をよく見ますね？ 一日何回位見ますか？ 女性と男性では見る回数は違うと思いますが、女性の方に伺います。

“私は一日に鏡を少なくとも 10 回以上は見ている方は手を上げていただけます？”

(恥ずかしくてあまり手を上げる人は少なかった

若い人はたぶん少なくとも 20 回位見ているでしょう。

“それでは 1 日 3 回位見ている方は？”(皆、笑顔を見せてる)

“わかりました。そしたら 1 回も見えていない方は？”(皆笑ってしまう)

その鏡を見て腹が立つ方もいらっしゃるし、自己満足で笑顔になる方もいるでしょう。しかし年を取って行くと、だんだん鏡を見ることから距離を置いてしまうことが人間の心理です。それはお父さん、お母さんに「一緒に写真を撮りましょう」と言っても、若い時は喜んで写真に写ろうとカメラに近づいて来ましたが、年を取るとカメラを避けようとする場合があります。それは自然で当然な事だと思います。そして最近では技術が進んで、良い化粧品が出てきて、しみやしわを隠すことができます。そして成型の技術も優れていて、ひっぱったり、切ったり、削ったり、入れたりしてなんとか隠すことができます。

しかし、絶対隠せない所が顔にはあります。それはどこでしょうか？ 瞳とか目つきです。

“さあ、私と今、目を合わせていただけますか？”

年を取って、形がきれいではなくても私たちが責任を持たなくてはいけないのは自分の目です。目は絶対だます事はできません。怒りで満たされた目、愛する人を見る目、目を見ればその目によって全然違います。目には小さくともその人の気持ちが表れます。結局、それは私達の信仰の歩む道は目をきれいにする為にがんばる事ではないでしょうか？ 皆様に鏡を見るときに一番重点的に見て頂きたい所は目です。他の人がこの目を見て気持ち良くなるか悪くなるか。この目を見て癒される気持ちになってくれるか、近づきたい気持ちになるか、逃げたい気持ちになるのかを押し量らなくてはならないと思います。自分の目に対していつも正しく見ようとしなくてはならないことです。

私達信仰者にとっては祈る心が必ず目に表れます。年を取っていても障害を持っていても健康でない体でも、その目を見たらこの人はどの位美しいか、悩んでいるのか、心配する事が一杯で、イライラしているのかを目を見たら分かります。皆様、その目を一番大事にしてください。

イエス様も目は心の窓とおっしゃいました。私達の目、一番愛される相手の記憶に残す私たちの目です。この目が本当にきれいにいろいろな人々に見えるようにがんばりましょう。

洗礼を受けたばかりのある人が信者ではない友達とお酒を飲みながらいろいろな話をしました。

「あなたは最近洗礼を受けたと聞いたけど、イエス様とはどういう方？」と開かれ、彼は頭にいろいろな浮かびましたが「はっきり言えない」と答えたそうです。そうしたら、友は又「教会では何を教えているの？」と開き続けたそうです。「沢山習ったけど何を教えてもらっているのかまだ答えられない」と言いました。

そして次に友達が「あなたは信者になっても変わった事はないね」と言われたそうです。

彼は「いいえ」と答えて、その友達に「はっきり何かが変わったとは説明できないけど言えることがただ一つある」と彼は友達に話しました。

「私は洗礼を受ける前はただの酔っ払いだった。自分が家に帰ると家族はみな怖がっていた。しかし

洗礼を受けた後は酒をやめた。そして、洗礼を受ける前にはストレスでイライラして、人に優しい顔を見せる事が出来なかった。しかし今はいつも笑顔が出ていることを自分を感じている。そして洗礼を受ける前には想像できなかったことは、妻と子供たちが自分が仕事を終えて帰ってくることを笑顔で迎えてくれる。自分を待っていたことをはっきり感じられる。イエス様がどんな方かとか、教会の教えは何かは、はっきりあなたに言えないけど、私が変わった事は言える。」

皆様も同じような体験をしているのではないのでしょうか？

私が今、申し上げたいのは“何かを知ることには必ず伴うものがある”ことです。それは“変化”です。知ることによって終わってしまったらそれは知る事にはなれません。何かを知ったと言え、その人には変化が現れないといけません。皆様はイエス・キリストを信じてついて行きながら変化を感じていらっしゃるのでしょうか？ イエス様を知らない時と比べて、どの位変化を感じているのでしょうか？ 洗礼を受ける前に辛かった出来事が、洗礼を受けてから同じ事に遭っても、滑らかに乗り越えられた体験をしたではありませんか。

今日、「私の名によって2人か3人が集まって同じ心で願えば、そこには必ず私がいる」とイエス様はおっしゃいました。この御言葉を知らない人はいないと思います。全部知っています。そうしたら、知ることによって終わるのではなくて積極的に2人か3人が一緒に集まって祈るべきです。家庭でも家族と一緒に祈れば困難は乗り越えられます。そして教会も同じです。とくに、うちの教会はすごいです。27カ国の人々がイエス様の名によって、ひとつの心になって願えることが出来れば、なんでも叶えられます。2人の話でも聞いてくださると約束されたイエス様です。私達の共同体も一つになればなんでも出来るのではないのでしょうか？

知ることには変化を意味するのです。変化が出来なかったら「私は知っています」と言わないで下さい。正しい方向への変化、自分を癒す変化、ある意味では変化は信仰の實りではないのでしょうか？

皆様、これからも、「知ってる。知ってる」と口にしながら言う事は本当に知ってることなのか、もし錯覚していることではないかを識別する知恵を求めましょう。

もし愛を叫ぼうとすれば愛になります。信仰を叫びたいという心があれば信仰になります。キリスト教を叫びたかったら、まずキリスト教の信者になることです。

こういう変わらない事をよく考えてみますと、私達はいろいろな所で反省すべき面が沢山現れると思います。イエス様は私達のイエス様です。そのイエス様は私達を変化させる様に彼の御旨に叶う者として変化させる様に願いましょう。

ありがとうございました。